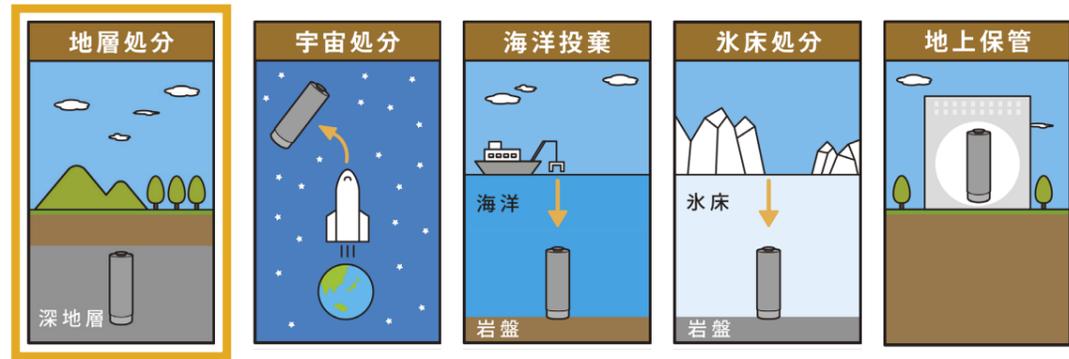




あなたのギモンに お答えします

Q 地層処分するってどのように決まったのですか？“地層処分ありき”で進んでいるように感じます…。

A 国際的な見解や法律に基づき着実に進めているもので、“地層処分ありき”ではありません。高レベル放射性廃棄物の最終処分は、原子力発電を利用するすべての国が抱えている課題です。世界中で様々な方法が検討され、現時点では、**国際的に地層処分が最も安全で実現可能な処分方法**とされています【図参照】。また、国際条約では「**放射性廃棄物は発生した国において処分されるべき**」とされ、各国とも自国内での地層処分の実現に向けて取り組んでいます。もちろん日本も、国内で確実に処分しなくてはなりません。



日本では、原子力発電の利用が始まる前から処分方法の検討が開始され、1976年からは地層処分の研究開発が進められてきました。そして1999年、**日本でも地層処分が技術的に十分信頼性をもって行える**ことが報告書^{*}で示されました。翌年に制定された「**特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律**」の中で、**地表から300メートル以上深い地層に処分する**と決められています。NUMOはこの法律に基づき、地層処分の実施主体として設立されました。円滑に地層処分事業を進めるため、NUMOは国際機関の会合等に参加して情報交換をしているほか、国内の研究機関や海外の実施主体などと協力協定等を締結して共同研究なども行っています。



日本で開催された放射性物質環境安全処分国際協会 (EDRAM) 会合の参加者一同 (2024年5月)

^{*}核燃料サイクル開発機構 (現: 日本原子力研究開発機構) が、専門家や研究機関による20年以上の調査研究を踏まえて公表した『わが国における高レベル放射性廃棄物地層処分の技術的信頼性—地層処分研究開発第2次取りまとめ—』

もっと詳しく!
国内外の研究機関等との連携について



未来を見据えて地層処分を考える

シン・ちか通信

Vol.9 発行: 原子力発電環境整備機構 (NUMO)



1 TOPICS 地層処分の国民的議論に向けて 文献調査報告書を取りまとめ

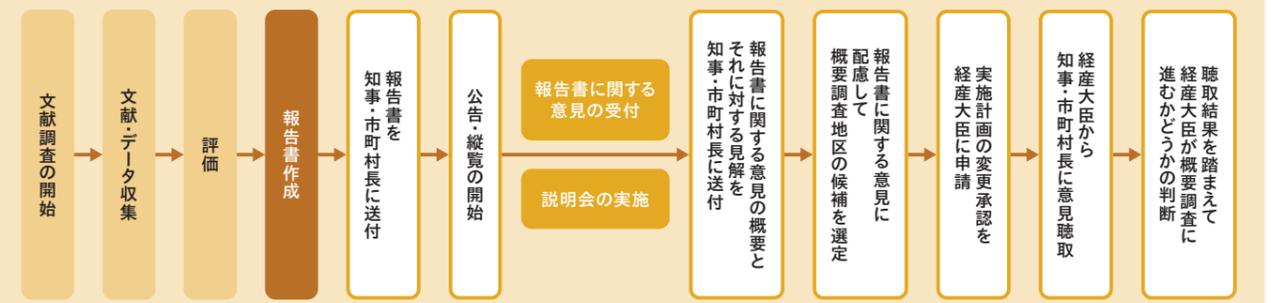
北海道寿都町と神恵内村で実施している文献調査について、2024年2月に報告書の原案を国の審議会に提出し、複数回の審議を経て、8月1日に概ね了承をいただきました。今秋以降、法令に基づいて報告書の公表(公告・縦覧)や説明会を実施してまいります。北海道においては、「特定放射性廃棄物の持込みは慎重に対処すべきであり、受け入れ

難い」とする条例が制定されています。北海道知事からは、この条例制定の趣旨を踏まえ「概要調査に移行しようとする場合には現時点で反対の意見を述べる」とのお考えが示された上、地層処分事業に関する国民的議論が必要とご意見を頂戴しています。また、寿都町と神恵内村の皆さまからは、『対話の場』等を通じて本事業についてご

議論いただくとともに、様々なご意見もいただいています。このような状況から、北海道知事および両町村の皆さまのご意見を真摯に受け止め、全国の皆さまにこうした北海道の状況を知っていただきたいと考えています。私たちNUMOは、地層処分事業が全国的に議論されるよう積極的に働きかけてまいります。

〈文献調査の流れ〉

※知事及び市町村長の意見を十分に尊重することとしており、その意見に反して先へ進みません。



2 TOPICS 安全な地層処分事業を進めるために 文献調査業務に従事する技術部職員へのインタビュー

共同通信デジタルの47NEWSに、文献調査業務に従事する技術部職員の高畑へのインタビュー記事を広告掲載しました。「地域の方々が生活してきた大切な場所に、(高レベル放射性廃棄物を)安全に処分できるように自分が学んできた地球科学の知識を生かしたい」といった、高畑がNUMOへの

入構を決めた思いなどを掲載しています。青森県六ヶ所村の隣町で育ち、原子力事業が地域活性や人材流入に寄与することを体感した経験から、地層処分の推進は同様の効果につながるとの信念をもって、日々取り組む姿をぜひご覧ください。



写真提供: 47NEWS

もっと詳しく!
共同通信デジタル 47NEWS

3 TOPICS 北海道最大級の環境・SDGsイベントに初出展！ 環境広場さっぽろ2024



「環境広場さっぽろ2024」NUMOの実験ブース



「おえかきジオ・ラボ号」たくさんの子どもの絵で、ジオ・ラボ号がいっぱいになりました！

体験しよう！地層処分 Instagram

北海道以外にも、全国各地でイベントに出展しています。その模様をリアルタイムにお届けするため、イベント専用のInstagramも開設しました。ぜひご覧ください！



8月24日～25日で北海道札幌市にて開催された「環境広場さっぽろ2024」に初出展しました。

このイベントは北海道で最大級の環境・SDGsイベントとして有名で、今年は約18,000人が来場。

NUMOのブースでは、「つくる責任・つかう責任」、「質の高い教育をみんなに」などSDGsの視点を取り入れながら、次世代を担う子どもたちへ地層処分について紹介しました。

また、同じ北海道内では、7月7日に神恵内村の「かもえない沖揚げまつり」、7月26日～28日に岩見沢市の「まめフェス SDGsまめに実践!!」、8月3日に北見市の「北見工業大学 おもしろ科学実験」、8月10日～11日に東神楽町の「アルティモール東神楽」にも出展しました。



かもえない沖揚げまつり



まめフェス SDGsまめに実践!!

**エコプロ2024
今年も出展します！**

今年も12月4日～6日に開催予定です。続報をお楽しみに！



もっと詳しく！

出展予定や実績



現場最前線

FRONTLINE

地域交流部の職員が
取り組みを紹介



地域交流部
寿都交流センター
愛智 滉大

「自分がやる」という使命感

“知りたい”熱が最も高い現場で“伝える・伝える”仕事を

私は、大学で材料工学を専攻しました。当時から、技術的な考え方やイメージを伝えるには、専門用語ではなく柔らかくかみ砕いて説明することが重要だと考えていました。その想いを持ち、2018年に入構。5年以上にわたり、全国各地でのイベント対応やホームページ運用、広告出稿など、広報部で様々な“伝える”仕事に携わりました。目の前の相手の反応を見ながらお話しする場合、不特定多数の幅広い方々を対象に知りたい情報を届ける場合、本質は変わりませんがその方法はまったく違います。それぞれの場所で「事実がしっかり伝わる」ことを常に追求してきました。

そして昨年7月、寿都交流センターに異動しました。私自身がこれまで取り組んできたことが生かせる“知りたい”という熱が最も高い場所の一つです。

着任後、交流センターの2階を古来の広報部と協働で、町民の皆さまに利用していただける交流室として整備しました。その中には、模型やジオラマ、実験キット、パンフレットなどを設置し、訪れた方が地層処分に興味を持っていただけるスペースも用意しました。興味を持っていただくには、実際に自分の目で見て体験することが一番だと考えています。この交流室が地域の皆さまの「見たい、体験したい」という行動の入り口になればと思っています。

着任して1年が過ぎたばかりですが、祭りの手伝いや清掃活動など地域の様々な活動への参加を通して、地域の皆さまと交流させていただいています。

皆さまに温かく迎えていただいた恩を返すためにも、調査やNUMOの取り組みなどをしっかり“伝える”とともに“伝える”ことを目指して、業務に取り組む継続したいと思っています。

もっと詳しく！

北海道新聞デジタルに
インタビュー記事を掲載



「正直に」伝えることを大切に

村民の一人として神恵内村の皆さまと一緒にまちづくりを

私は2022年4月に入構し東京で勤務した後、希望が叶い、翌年5月から北海道神恵内村に赴任しました。村と共同で設置している「対話の場」で、村の皆さまに文献調査の状況を説明するほか、当日の説明内容や議論をまとめた資料を作り、村内全戸を訪問します。「分かっていることはより分かりやすく、分からないことは分からないと素直に伝えて調べる」ことが、神恵

内村への貢献だと思っています。神恵内村の魅力は「人」。人事異動のシーズンに「転動しちゃうの？」と心配そうに住民に聞かれたことは、村に受け入れていただいていると感じ、嬉しかった出来事です。NUMO職員としてではなく“村民の一人”として、村の皆さまと一緒に神恵内村の未来を考えたいと思っています。

もっと詳しく！

北海道新聞デジタルに
インタビュー記事を掲載



現場最前線

FRONTLINE

地域交流部の職員が
取り組みを紹介



地域交流部
神恵内交流センター
木村 友洋